

■ 安心したキャンパスライフを！ダイバーシティ推進を背景にした学生支援 ■

各学舎のトイレで生理用品を無償配布

～ 専用ディスペンサーや非接触型ダストボックスを順次設置 ～

関西大学では、「関西大学ダイバーシティ推進宣言」のもと、学生が安心してキャンパスライフを過ごせるよう、構内女子トイレにおいて、生理用品の無償配布を開始しています。

本件の
ポイント

- ・ 学生発のアイデアをきっかけに、生理用品の無償配布を全学的に実施
- ・ 各学舎の一部の女子トイレに生理用品専用ディスペンサーを設置
- ・ 無償配布の生理用品は更新対象の災害用備蓄品を活用

「生理の貧困」が社会課題となっている昨今、女性の健康や尊厳にかかわる重要な課題として、これに取り組む動きが広がっています。本学においても今年度、大学生協の学生団体が主体となって、生理用品の無償配布が試行的に実施されました。学生からのニーズも高く、大学全体の取り組みとして発展させてほしいとの声もあり、このたび各学舎等の一部の女子トイレに生理用品専用ディスペンサーを設置することとなりました。あわせて、非接触型ダストボックスを設置するなど女子トイレの整備も進めます。さらに SDGs の観点から、無償配布の生理用品は、更新対象の災害用備蓄品を活用しています。

本取り組みに関して、大津留智恵子副学長（ダイバーシティ推進担当）は、「生理用品が無償で手に入ることは必要である。経済的問題もあるが、突然必要に駆られることもあるため、どの学舎でもトイレに行けば手に入るという形にしたい。なぜトイレットペーパーは置いているのに、生理用品は置いていないのか。女性に限ったものはどうして対応が遅れているのか、考えるきっかけとしてほしい」と語っています。

また、発案者である関大生協学生企画室の学生は、「生理の貧困には、買えないという経済的貧困のみならず、知識・機会の貧困も含まれると考えている。タブー意識、男性だから関係ないという考えが生理について話す機会や学ぶ機会を奪っていることに懸念を感じていた。生理は日常生活に影響が大きいため、これを機に性別問わず考えてみてほしい」と、本取り組みに対する思いを述べています。

■ 生理用品無償配布の詳細

<配布場所>

千里山キャンパス、高槻キャンパス、高槻ミュージックキャンパス、堺キャンパス、併設校における各学舎等の一部の女子トイレ

<配布方法>

洗面台付近に専用ディスペンサーを設置



<非接触型ダストボックス>



<専用ディスペンサー>

※大阪大学 MeW Project 製作

■ 【ご参考】 関西大学ダイバーシティ推進宣言 (2021年12月9日策定)

<https://www.kansai-u.ac.jp/gender/diversity.html>

以上

※取材をご希望の方は、お手数ですが下記まで事前にご連絡願います。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：中村、寺崎、木田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-1507 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp